

視点を換えれば、世の中は変わる。

Rethink=視点を改めて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を改めて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っていきます。

そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？

Rethink フォーラム



テーマ

Rethink長野 ~女性や若者が 住みやすい街を目指すために~

「Rethink長野 ~女性や若者が住みやすい街を目指すために~」(信濃毎日新聞社主催、Rethink PROJECT協賛)は10月上旬、長野市の信濃毎日新聞長野本社で開きました。長野県の人口、とりわけ女性・若者人口が大きく減っている今、誰もが住みやすい地域になるにはどうしたらいいか、長野県知事の阿部守一さん、JT長野支社長の園田勉さん、お笑いコンビ「こてつ」の北村智さん、河合武俊さんが語り合いました。モデレーターはタレントの小林知美さん。それぞれの視点から長野県をRethinkした座談会の要旨を紹介します。



モデレーター

出席者



小林知美さん (タレント・MC)
岩手県盛岡市出身。2000年、スリムビューティーハウス主催のダイエットコンテストでグランプリ受賞をきっかけに芸能活動をスタート。東京では太田プロダクションに所属し、「高松知美」としてメディア出演や講演活動などを行う。2013年、結婚を機に長野県へ移住し、現在はフリーで活動。2児の母親。



阿部守一さん (長野県知事)
東京都出身。東京大学法学部卒業後、自治省(現総務省)入省。2001年1月に県企画局長。同年10月~04年7月に副知事を務めた。総務省を退職後、横浜市副市長などを経て2010年の長野県知事選で初当選。現在4期目。



北村智さん・河合武俊さん (長野県住みます芸人・こてつ)
【北村智】群馬県前橋市出身。【河合武俊】東京都波田町(現松本市)出身。吉本興業東京本社(東京吉本)所属。東京NSC9期生。2006年結成。2011年から吉本興業「あなたの街に住みますプロジェクト」の長野県担当芸人。県内のイベントやテレビ、ラジオ番組などに出演多数。



園田勉さん (日本たばこ産業株式会社 長野支社長)
東京都出身。青山学院大学経済学部経済学科卒。1994年日本たばこ産業株式会社入社。東京支社副支社長、渉外企画室事業担当部長を経て2020年に上信越支社長長野支店長、2022年から現職。

01 「ここで生きていきたい」と思える地域とは

「小林」長野県では今、女性や若者に住みやすい地域づくりを大きな目標にしていますね。

「阿部」子どもも含めた若者や女性が、希望を持って楽しく暮らせる社会にすることは、人口減少に立ち向かうために極めて重要です。県としては、まず人口減少を食い止めること、そして、人口が減っても活力があつて、持続可能な社会を作ること、この両面から取り組む必要があると感じています。

人口減少を食い止めるには、地域社会の寛容性を高める努力が必要だと感じています。昔からの男女の固定的な役割意識が強かったり、若者がやりたいことを自由にやりつらかったり、といった世の中のありようを変え、多様な人たちを受け入れる社会にしていかなければ、若い人や女性たちが「ここで生きていきたい」と思えないでしょう。



一方、人口が減り続ける中でどういう社会をつくるか、という点では、若者の意見を聞くこと「楽しい街がほしい」「交通をもっと便利にしてほしい」という声がよく出てきます。こうした取り組みは、行政だけでなく、企業の皆さんをはじめ、多くの人が関わりながら進めたいと思っています。

「北村」知事のお話で、「地域社会の寛容性」という言葉が印象的ですが、僕らが長野県内で婚活イベントに開いた経験から言うと感じたのは、参加していた人の「奥ゆかしさ」。これは長野県の県民性なのかなと思えるのですが、恥ずかしがらずにぐいぐい前になる積極性を持つよう、若い人は意識した方がいいのではと感じます。

お笑いのライブをやっても、隣の県では前の席からほとんど埋まっていくけれども、長野県で行うイベントでは、あまり前に来ないことが多いです。後ろの方で、いつか帰れるようにしている、みたいな。「園田」生まれも育ちも東京の下町の私が長野県に来て、多くの方と接する中で感じたのは、人の生真面目さと優しさです。こうした部分は大事にしながら、変えるべき部分を変えていけば、本当にすばらしい地域になるでしょうね。

02 「誰もが輝ける社会」を作るために

「小林」長く住み続けるには「働く場所」も大事ですね。

「園田」人の人生を考えた時、仕事している時間は一部で、プライベートの方が圧倒的に長い。その時間を大切にできるような職場にしよう、私たちは考えます。JT長野支社は30人弱の規模の事業所ですが、この1年で、4家族合わせて5人の子どもが生まれました。社員が穏やかな心で生活し、仕事をし、幸せに過ごしている様子を見るとうれしく思います。

その中で、子どもを産み育てる選択をした家庭に関しては、育児時短など会社のシステムを活用しながら、気持ちよく仕事をしてほしい。その思いを周囲の社員も理解してくれていて、多様性を認め合いながら、皆が自然な形でサポートしています。

「阿部」仕事と家庭生活、あるいはプライベートの時間を両立させるためには、経営者の皆さんや事業所の雰囲気、姿勢がとても大事です。

例えば社会保障のモデル世帯が「サラリーマンの夫と専業主婦の妻」とされているのは問題で、昭和の時代ならいざしらず、それはもはや「当たり前」ではありません。今の若い人たちの意識は、「共働きで子育て」。職場を含めた社会全体がその意識を共有してRethinkし、皆で応援していく雰囲気を作っていくことが大事だと思います。

「小林」私は子どもたちを産む前、「ここで長く休みをとったら、戻って仕事ができる場所がなくなるのでは」という不安を抱いた経験があります。女性や若者が子育てをしながらも、社会で活躍できる環境づくりが大事ではないでしょうか。

「阿部」それはまさに力を入れていかなければならない部分です。日本では海外に比べ、若者が「自分の力で社会を変えることができる」と思っている割合が高い。この点は新しい学びのあり方が必要だと考えます。私なりにこれをRethinkしてみると、教えられる「ルールを守る」という今までの教育を、「ルールも自分たちで考えていく」というように変えていく必要がある。そうでないと、社会に出て何かを変えられる存在になれないでしょう。そして、そうやって育てた若者の考え方を、社会でしっかり受け入れていく仕組みも作らなければいけない。

「河合」僕の経験から考えても「自分から発信してよい」という教育では確かならなかつたかもしれません。「掃除の時は無言で」と言われても、なぜそうしなければいけないのか分からなかつた。そういう教育は、長野県民の「奥ゆかしさ」を作っている原因の一つなのかもしれないですね。

03 「長野県らしさ」を磨いていく

「河合」若者が活躍できる地域を作る、ということなら、長野県でないと楽しめないようなことを磨いていけばいい、とも考えます。例えば今、サウナがブームになっていますね。最近知り合った方の中に東京から移住してきた人がいて、仕事はプログラマー



若者に人気のある自然の中のサウナ



ひろえば街が好きになる運動

が声掛けをして駅前のおさまさまな企業の皆さんと一緒に掃除をしています。また、飯綱高原での森林保全活動、上高地での清掃活動として、SDGsについての出前授業といった活動にも大変力を入れていきます。

「北村」そういう活動僕らも参加させてほしいですね。イメージアップのために。

「園田」このような活動は、行政も民間企業も関係なく、みんなでやるのが大事なのではないかと思えます。

「阿部」公共的な活動はもとも、行政だけでなくさまざまな方の協力で成り立っていました。人口減少や高齢化のためにそうした動きは減ってきています。お祭りや伝統芸能などはその例で、行政が税金を使って支えるだけではとても追いつきません。そうした面で活躍する人を支えたい、とも考えています。

人口減少という課題は、今の社会をよりよい方向に変えていくための大きなチャンスだと思えますので、明るい未来をぜひ多くの皆さんとRethinkしながら一緒に描いていきたいと思います。